



ホーム安全柵は何のためにあるのか!?

JR東海の驚くべき指導! 「一部の可動柵が開いたままでも列車を発車させなさい。」

1月に実施された大阪第二運輸所の営業訓練において、車掌が誤って新幹線のホーム可動柵を閉め忘れた場合でも、柵を閉めずにそのまま新幹線を発車させ、ホームを過ぎてから関係指令に報告するよう指導しました。



こんな危険な状態を放置したまま発車させてもいいのか!

転落防止のために設置した安全柵は乗客の安全を守るために設置された設備です。この柵を閉めずに発車させることは、危険な状態を放置したままにすることです。乗務員サイドでは、閉め忘れに気づいた時点で、列車の停止手配を行い、開いたままの柵を確実に閉め、安全を確認してから発車させることが基本的な取り扱いであると質問しました。

しかし、会社は頑なに、「訓練で指導している。」「危険と思ったら列車を止めても間違いではない。」等と曖昧な回答しかしません。

新幹線は、多くの列車がホームへの入線と出発を繰り返しています。一部の柵だけ閉まっていない状態がどんなに危険な状態なのか、会社は理解しているのでしょうか!

乗客の転落事故が起きてからでは遅い! 乗客の生命を守るため、全ての安全柵を完全に閉めてから発車させることが「安全第一」の取り扱いだ! 会社は直ちに、誤った指導を改めること!

運行優先、営利優先の不安全な会社の姿勢を改めること!